

「ディケンズとともに」

船場弘章

ディケンズ・フェロウシップ日本支部・平成25年度秋季総会
西南学院大学、2013年10月19日（土）

最初にこのディケンズ・フェロウシップ秋季総会で発表の機会を与えていただいたことに深く感謝致します。

- ディケンズの小説との出会い

私がディケンズというイギリスの小説家を知ったのは、小学5年生の頃に母親が買って来た、偕成社版少年少女世界の名作の中にあつた『大いなる遺産』『二都物語』によってでした。この全集をすべて購入したわけではありませんが、他にもアレクサンドル・デュマのダルタニャン物語から『三銃士』『復讐鬼』『鉄仮面』等の本もありました。この時に購入してもらつた、偕成社版の『大いなる遺産』と『二都物語』は私が大学に入学する頃には処分されてなくなつてしまつてしまつたが、小、中学生の頃、何もすることがなくて手持ち無沙汰な時に、表紙絵、挿絵、登場人物のプロフィールなどを飽きずに見ていたことを覚えています。『大いなる遺産』と『二都物語』という世界の名作がある、だからいつかそれを読まねばならないと言ふことだけはなんとなく頭に残つた気がします。

- ディケンズの小説に興味を持つようになったきっかけ

私が海外文学に興味を持つようになったのは、予備校の英語の先生の余談、授業と関係のないお話からでした。

その先生はある日の授業で「自分は今40才だが既に1万冊読破している。皆さんも年間100冊は読んでほしい」と言われたのでした。当時の私にとってその先生が言われたことは絶対実行しなければならない決まりとなつていて（先生が言われることをきいていれば、必ず合格すると言われていました）、さっそくそれを実行しようとその予備校の隣にある星野書店という本屋に入り浸るようになりました。読書は通学で利用した阪急電車（相川駅から四条大宮駅まで）の中でしましたが、往復で1時間半ありました。

この頃、よく読んでいたのが岩波新書、講談社現代新書（活字が大きいので読みました）で、ある日、モームの『世界の十大小説』（岩波新書）という著作の中で、ディケンズの『デイヴィッド・コパフィールド』が紹介されているのを読んで興味を持ち、すぐに購入して読むことにしました。魅力に富んだ人物がたくさん登場するこの小説はとても面白く、そのあと『オリヴァ・トゥイスト』『クリスマス・カロール』を読みました。

- ディケンズ以外に興味を持った小説について

大学時代は苦勞して法学部に入ったのですが法律学に馴染めず、世界の名作を読んだり、語学を幅広く学習しました。第2外国語でドイツ語を習っただけでなく、3回生の時には随意科目でスペイン語の文法とリーダーを履修しました。

ある日、衣笠（今は立命館大学前と名称が変わつています）のバス停で帰りのバスを待っていたところドイツ語のN先生とばつたりと出くわし、文学の話で盛り上

がったのでした。私がイギリス文学に興味を持っている話をする、N先生はリチャードソンの『パミラ』やスターンの『トリストラム・シャンディ』そしてこちらはドイツ文学になりますが、ブロッホの『ウェルギリウスの死』についてバスの中で説明されました。

N先生からは、小説は会話文と地の文とで構成されるものばかりでなく、手紙と日記だけで構成されるものや延々と心の中のことを描写するものもあることを教えていただきました。

- 再びディケンズの小説を読み始めるきっかけ

長く続いた私の文学冬の時代が開けたのは、その10年以上前に薦められたアレクサンドル・デュマの『モンテ・クリスト伯』をふと思い出し読んだのがきっかけで、今から5、6年前のことでした。

そんなある日、神田の古書街から少し離れたところに風光書房という古書店があることを知り、行ってみることにしました。店主のSさんは人当たりのよい親切な方でオーストリアの作家シュティフターの『晩夏』という作品の話で盛り上がり、その日はディケンズの『骨董屋』と『爐邊のこほろぎ』を購入して帰りました。

古書店で大量に古書を購入するようになり、通勤の行き帰りの電車の中で読むだけではとても時間が足りないと思った私は、いつもより1時間ほど早く家を出て、職場近くの喫茶店で読書をすることにしました。喫茶店で読書する利点は何よりも腰を落ち着けて読書ができることです。ハードカバーのため電車の中で立ち読みしにくい本も喫茶店ならテーブルの上においてゆっくりと読めるのです。この喫茶店で、『リトル・ドリット』『荒涼館』『バーナビー・ラッジ』『ピクウィック・クラブ』『骨董屋』『ドンビー父子』『ニコラス・ニクルビー』などをじっくり読むことができました。

大人が世界の名作を読むことに違和感を感じられる方に一言言っておきますと、名作と呼ばれる書物は多くの示唆に富み、感動を齎してくれるものなので、学生時代に読むだけというのは少しもったいない気がするだけお伝えすることにします。

- ホームページの開設

私は2002年2月にホームページを開設しました。当初はクラシック音楽を紹介することを中心に置いていましたが、いつしか短編小説も掲載するようになり、友人から長編小説を書いてみたらと勧められるようになりました。一度に長編小説が書けるほどの文才はないと自分で思っていた私は、新聞の連載小説にヒントを得て、A4サイズに収まるくらいの分量の短編小説、プチ小説をホームページに掲載し始め、まず『こんにちは、ディケンズ先生』の連載を始めたのでした。

- 古書の購入に精を出す。

私は古書店でディケンズの小説の訳書を購入するようになってから、ひとつの目標を持っていました。14の長編小説と未完の『エドウィン・ドルードの謎』をすべて購入し読了することを。しかしながら古書店巡りだけでは限界があります。インターネットで「日本の古本屋」を利用すると、予想以上にディケンズの訳書が手に入ることがわかりました。古書店めぐりと「日本の古本屋」の利用などで2012年の秋季総会の少し前に念願を叶えることができました。そうしてすぐに「チャールズ・ディケンズの長編小説について」という小文をディケンズ・フェロ

ウシップの新着情報に掲載していただきました。

7. 『こんにちは、ディケンズ先生』ができるまで

ディケンズの長編小説を読むことで、たくさんの彼が創造した登場人物に出逢うことが出来ました。自著のあとがきにも書きましたが、ディケンズの小説が面白いのは、個性の強い登場人物がここしかないという場面（シチュエーション）で組み合わせられ、興味深い会話を交わすからです。これらの小説の興味深い場面を盛り込んだ小説を自分で書いて、まだディケンズの小説の素晴らしさを知らない方に彼の作品について知ってもらえれば、これまでディケンズという偉大な作家から受けた恩恵に対して感謝の気持を表すことができるのではと考えたのでした。

19世紀の文豪の小説と主人公との接点をどうするかが問題でしたが、主人公の夢の中に文豪が現れるということにしました。またイギリス人のディケンズが日本語を話すということについても、「今、起っていることが、君の脳内で起きているからなんだ。私は人によって、人のニーズに合わせて、形を変えるのさ。だから君がわからないような言葉は全然使わなかつただろ」とディケンズ自身に語らせることで解決しています。夢の中で人生相談に乗ったり、自分の作品について語ったりするというのは、よく考えるとあり得ないことですが、楽しい小説にしたいと著者が頭を絞って、ひねり出した秘策と考えてお許しただけたらと思います。そうして2011年1月近代文藝社に75話分の「こんにちは、ディケンズ先生」を送付したところ、費用は自己負担となるが、出版した後3年間は書店で購入が可能と出版社から回答があり、本の出版を決めました。

● ディケンズの小説の面白さ

ところで皆さんはディケンズの小説のどのようなところに興味をお持ちでしょうか。登場人物、ユーモア、改心、いろいろおありだろうと思います。私は、先にも述べましたが、個性の強い登場人物がここしかないという場面（シチュエーション）で組み合わせられ、興味深い会話を交わすというところに出くわすことを楽しみにしてディケンズの作品を読んでいます。

その印象的な場面を5つ取り上げてみました。みなさんはもっと印象的な場面がありますよとお考えかもしれません。ありましたら、是非お教えてください。

それでは、その場面を私が好きな『クリスマス・キャロル』『デイヴィッド・コパフィールド』『荒涼館』『リトル・ドリット』『大いなる遺産』からひとつずつ取り上げてみたいと思います。

まず『クリスマス・キャロル』では、第1章のスクルージとマーレイの亡霊との会話の場面が印象に残ります。普通の人間が、亡霊と話をすることだけでもディケンズの発想に拍手を送りたくなります。そのうえさらに亡霊が、「わしが今晚ここへ来たのは、おまえがわしのような運命におちいることをまぬがれる望みがあることを教えるためなのだ。わしが、わざわざこしらえてやる機会と望みなんだよ」とスクルージに語りかける時、ディケンズが創造したかつてはスクルージの同僚であった人間味のある幽霊に心が癒されるのです。

次に『デイヴィッド・コパフィールド』ですが、こちらは第14章のデイヴィッドの大伯母さんベツイ・トロットウッドと悪人であるマードストーン姉弟との対決が描かれた場面が印象に残ります。マードストーン姉弟は自分たちの悪事を正統化する目的で、自分たちのところから逃げ出し大伯母に保護されたデイヴィッドを再び自分たちの監視下に置くために大伯母の家にやって来ます。家の庭にロバで乗り付け、神聖な芝生を汚したマードストーン姉弟を相手に大伯母は、「出て行ってちょう

だい。ここに用はないでしょう。いったい全体なんで不法侵入しようってんです。出て行ってちょうだい。ああ、いけ囂々しい女ね」と悪人ふたりを金縛りの状態にします。その後大伯母はこの悪の姉弟に正々堂々と口論を挑み、打ち負かしてしまいます。ここは何度読んでも爽快感が残る場面です。

3つめは『荒涼館』ですが、第61章でヒロインのエスタがずる賢くハイエナのように人の財産を食い荒らす一見すると善人のように見えるスキムポールに対して友人夫婦をこれ以上苦しめないでと説得するところが印象に残ります。最初から自分の非を認めようとしな、スキムポールは薄笑いを浮かべてエスタの追及を躲そうとします。結局、エスタより人生経験が豊富で饒舌なスキムポールは最後まで謝罪することはありませんでしたが、再起の可能性あるジョーを警察に引き渡したことをエスタが話すと向きになって反論するのです。その後経緯を聞いたジャーディスがスキムポールの援助をやめ、金銭のやりくりがつかなくなったスキムポールは5年ほどしてなくなります。このようにして金銭に無頓着なふりをして友人に寄生して生活している芸術愛好家の末路はきびしいものとなっていますが、57年と数ヶ月の人生を精一杯働き通したディケンズにとって、スキムポールのような人物はたとえ芸術的なセンスがあるにしても許し難い人物と考えたのだらうと思います。

4つめは『リトル・ドリット』ですが、その第2部第29章に印象的な場面があります。幼い頃からエイミーに好意を持っていたジョン・チヴァリーが、アーサー・クレナムに自分の率直な気持を伝える場面です。自分がずっと愛して来た女性を奪われたという怒りがあるのに、愛する人のために自分の幸せを犠牲にして恋敵を応援すると誓うのです。どこか『二都物語』のシドニー・カー튼を思わせるような自己犠牲の清らかな言動です。ジョンが、「では、握手しましょう。ぼくはあなたの味方です。どこまでも、いつまでも！」と言ってアーサーと握手する時、私はいつも、「なん

ていいやつなんだ」と思わず言ってしまうのです。最後は『大いなる遺産』です。私はこの小説の中で最も好きな登場人物は、ジャガーズの弁護士事務所事務員をしているウェミックです。このウェミックが自宅で父親とするやりとりも楽しいのですが、もっと楽しませてくれる場面があります。第55章に出てくる、ミス・スキフィンズと結婚する場面ですが、ピップが当惑しながらも楽しんでいる様子が眼前に浮かぶようで、この小説の中の心に残るシーンのひとつだと思います。ウェミックが、「おや！ミス・スキフィンズだ！じゃあ、結婚するのでしょうか！」「おや！こんなところに指輪があるぞ！」と言った時にピップがどのような顔をしたかを考えると楽しくなって来ます。

もちろん、これ以外にも数えきれないほどたくさんの印象的な場面が、ディケンズの小説には出て来ます。その根底にあるのは、勧善懲悪、友情、諧謔などの最も読者を楽しませるわかりやすいものだと思うのですが、それを様々な背景の中で際立つ人物が演じると感動が増幅されるように思います。

私自身は、こういった場面を味わうためにディケンズの小説を読んでいると言えます。

8. 『こんにちは、ディケンズ先生』出版後のこと

本が出来上がってすぐにディケンズ・フェロウシップに寄贈したところ、名古屋大学の松岡先生から、京都大学で秋季総会があるので出席しませんかとのメールをいただき、今日に至っています。今回の発表は私の文章を何度か新着情報に掲載していただいたからだと思います。これからもディケンズの小説の素晴らしさを少しでも多くの方に知っていただけるよう、プチ小説やプチ朗読用台本を書いて行

こうと思っています。

今のところ、本の売れ行きはいま一つですが、寄贈した大学図書館や公立図書館のホームページに少しずつ掲載されて行っています。図書館の棚に並べられ一人でも多くの人に私の本を読んでもらえるのなら、本当に出版してよかったということになります。

続編については、先程も言いました通り、売上げがいま一つなので、本というかたちでは提供できません。ですが、実は私のホームページ上ではすでに3巻まで完成しています。第2巻では小説の手法についてわかりやすく解いていますし、第3巻では主人公の家族のひとりがクラシックの音楽家になるのを描いていますが、もちろんディケンズ先生に自分の小説のことを解説していただいています。興味がおありでしたら、ホームページのアドレスをお教えしますので、ご覧になってください。

もし『こんにちは、ディケンズ先生』がたくさん売れたら、こうしようという夢は持っていますが、現在のところはそうでないので、大きなことは言えません。ただこれからもディケンズの小説を愛読し、ディケンズに興味をお持ちの方に共感を持っていただけるような小説やエッセイを書いて行きたいと思っています。

* * * * *

私のような専門的にディケンズの作品を研究して来たものでない者に、このようにディケンズ・フェロウシップの皆さんの前で話す機会を与えてくださったことに改めて深く感謝の意を表します。

本日はどうもありがとうございました。